

弥生の生活を体験！

組み紐を編む

青谷上寺地遺跡では、縄だけではなく、三つ編や四つ編、五つ編などの組み紐が出土しています。

これらの組み紐の材質は、イネ科の植物で、3本以上の撻り合わせた紐を組み合わせていることが分かります。

弥生時代のものの中で最長の、約3.3メートルもおよぶ組み紐

弥生から時を超えて

青谷上寺地遺跡

は、4本または5本の紐を組み合わせて作られています。

五つ編は、5本の撻り合わせた紐を、外側の1本を使って、2、3本目の上を越し、4、5本目の下を潜らせて編み上げます。

約二千年前の弥生人は、1本の長い紐をていねいに撻り合わせ、さらに越し潜りの順序を間違えないで組み紐を仕上げています。その器用さには感心させられます。



青谷上寺地遺跡で出土した組み紐



五つ編

ところで、この最長の組み紐は、大きな溝（幅約8〜9センチ、深さ80〜95センチ）の中の大きな石の下で、絡み合った状態出土しています。この出土状況から想像すると、組み紐を巻いた状態で水に流されないように、重しをしていたように見られます。

青谷上寺地の弥生人は、組み紐で何を縛っていたのでしょうか。舟のとも綱？木材の運搬用ロープ？それとも…。

シリーズ vol.6 環境大学

環境政策学科 / 環境デザイン学科 / 情報システム学科

<http://www.kankyo-u.ac.jp/>

E-mail:nyushi@kankyo-u.ac.jp

■問い合わせ先
入試広報課

TEL (0857)38-6720



開学5周年を迎え、第2期生が卒業しました

開学5周年となるこの春、第2期生が新たに社会に羽ばたきました。みな、それぞれの分野で活躍していくことが期待されます。



今後も、社会の要求に応えられる実践力を備えた人材の育成に努めるとともに、さらに地域に貢献できる大学を目指します。

TOPICS

トピックス

キャンパスリユース

先輩から後輩へ 受け継がれるモノ

本学学生で組織されたキャンパスリユース委員会は、卒業により不要となった家具、家電を無料で引き取り、格安で新生生に提供していく目的で、卒業生も新生生も得をして環境にもやさしい「環境大学発エコビジネスモデル」を進行中です。



この事業は昨年、環境大学を支援する会主催の第2回環大コンペで、「大学生活の向上・あるいは地域社会へ貢献する企画」として第2位に入賞したものです。その賞金を利用し、卒業予定者からの連絡を受け、コツコツ回収し約100点にもおよぶ中古の家具、家電を新生生に販売するもので、3月26日に第1回目の販売を行い、4月4日、入学式の後に再度販売を行う予定です。本イベントを機に環境問題を実践の対象として、本学の学生の間にリユースの輪が広がってほしい、と同委員会メンバーは語っています。

※一般の人はご参加いただけません。